

バーチャルホスピタルの運用に向けて

新潟医療福祉大学医療情報管理学科・森脇健介, 本間久文,
寺島和浩, 高橋直樹, 東條猛, 福島正巳, 高橋榮明

【背景】

新潟医療福祉大学 医療経営管理学部 医療情報管理学科では、平成 22 年度よりバーチャルホスピタル (Virtual Hospital: VH) を開設し、その運用を開始している。VH では医事会計システム、電子カルテシステムをコアとする医療情報システムを配備しており、今後の本格的な運用によって、医療情報システムについての実践的な教育プログラムを提供することが可能になると期待される¹⁾。我々は、その先駆的な取り組みとして、外来受診の仮想事例に基づく医療情報教育プログラムの開発を行い、初学者を対象に実施した。また、受講者に対するアンケート調査を行い、その教育的意義についての検討を行った。

【方法】

仮想事例に基づく医療情報教育プログラムは、受講者自身がインフルエンザ様疾患などの急性期疾患に罹患して、外来を受診することを前提に、受付、診察、会計といった一連の診療業務を医療情報システムの操作を通じて体験するものである。

平成 22 年 8 月 7 日 (土) のオープンキャンパスに会場した高校生 58 名を対象に本プログラムを実践した。受講者らはインストラクターの指導のもとで VH 端末の操作を行い、以下の手順で演習を行った。

- ① 受付: 医事システムで患者情報を登録, 受付を行う (診察券を発行) ;
- ② 検査: 電子カルテで患者情報を参照し, 検査オーダーを出す (検査案内票・検査ラベルの発行) ;
- ③ 処方: 検査結果をもとに病名登録を行い, 処方オーダーを出し, 次回予約を行う (処方箋・予約票を発行) ;
- ④ 会計: 診療情報を医事システムに取り込み会計処理を行う (請求書・診療明細書の発行) .

なお、受講者らを対象に無記名式のアンケート調査を実施し、本プログラムの内容、難易度、インストラクターの説明、総合的な評価について、5 段階による評価回答を得た。加えて、本プログラム実施前と実施後における医療情報システムに対する理解度について、5 段階による評価回答を得た。また、本プログラムの良かった点や改善点について、自由記述による回答を得た。]

【結果】

アンケート調査を実施したところ、58 名中 52 名から回答を得ることができた (有効回答率: 89.7%)。プログラムの内容、難易度、インストラクターの説明、総合的な評価について、

「大変良い」または「良い」と回答した割合は、それぞれ、92.3%, 86.5%, 92.3%, 96.2%であった (図 1)。また、医療情報システムに対する理解度について、プログラム実施前と実施後で自己評価を行ってもらった結果、「よく理解している」または「なんとなく理解している」と回答した割合は、実施前では 48.1%であったのに対し、実施後では 86.5%であった (図 2)。

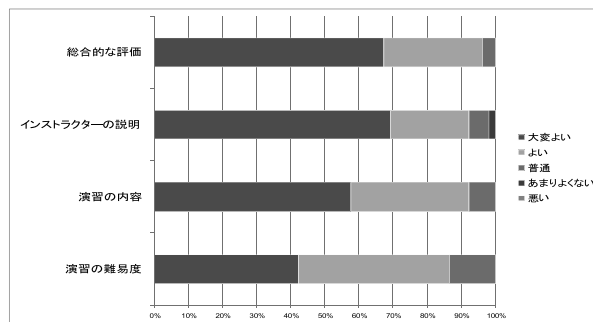


図 1. 受講者のプログラムに対する評価。

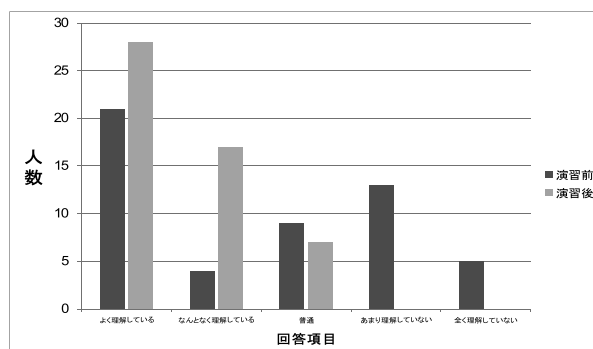


図 2. 医療情報システムに対する理解度の変化。

【考察】

自由記述回答も含めたアンケートの結果から、受講者らの本プログラムに対する満足度は良好であることが示唆された。また、本プログラムによる医療情報システムへの理解度は、プログラムの実践を通じて、ある程度の改善が認められた。ただし、今回の調査はあくまで探索的なものであり、次年度以降の VH の本格的な運用体制の確立とその教育上の有用性の評価のために、今後より精緻な調査・分析が必要となる。

【結論】

VH を活用した仮想事例に基づく医療情報教育プログラムは、初学者に対して医療情報システムへの理解を促し、実践的意義を持つことが確認された。

【文献】

- 1) 日本医療情報学会医療情報技師育成部会: 新版 医療情報 医療情報システム編. 篠原出版新社, 東京, 2009.